「片町夜曲(セレナーデ)」♯7
原作シナリオ

山崎浩治

「片町夜曲(セレナーデ)」＃７原作シナリオ

＃１　「スナック香澄」店内
　カウンターに並べられたご飯にみそ汁、漬け物の器。
アヤカのＭ「スナック香澄には同伴出勤のお客さんもやってきます」
　カウンターに並んで座る美人ホステスあかり(２０代・首にストールを巻いている。以下、衣装は変わってもストール着用)とサラリーマンの陽平(２０代後半)。
　店内にはアヤカと香澄ママ、常連の吉岡がいる。
陽平「すしや焼肉でもよかったのに、あかりちゃん‥‥」
あかり「フツーの人には夕食の時間でも、あたしには朝ご飯。これがご馳走なの」
陽平「オレの懐具合、気を使ってくれてるんだろ。あかりちゃんは優しいなあ」
あかり「(微笑んで席を立ち)ありがとう、香澄ママ(陽平と店に出て行く)」
アヤカのＭ「時々やってくるあかりさんは、とあるクラブの人気ホステスです」
吉岡「(あかりを見送って)彼女、絶対にアフターしないってことで有名なんだよ。午前０時にはさっさと帰ちゃうから、ついたあだ名が〝片町のシンデレラ〟。やれ子持ちだ、やれダンナがいるってウワサだけど、本当のことは誰も分からないんだ‥‥」
香澄「(スイーツの皿を吉岡の前に置き)吉岡さんが大好きなシナモンたっぷりパンプキンパイ作ったの。召し上がれ」
吉岡「これ、大好物(とかぶりつく)‥‥へ、へ、ぶえっくしょん！(オヤジくしゃみ)‥‥(苦笑して)オレさ、シナモンの香りでくしゃみが出ちゃうんだよ」

＃２　片町スクランブルの人混み(別の日の夜)

＃３　「スナック香澄」店内
　陽平が来店している。カウンター席には吉岡、美鈴の常連がいる。
陽平「(かなり酔っている)オレなんてせいぜい月１回、しかも会社の金でしか店に行けない微々たる客なのに、まめにメールくれるんすよ。それも営業メールじゃなくて、メル友感覚のやつ！あかりちゃんってホント、いい子なんすよ！」
美鈴「(アヤカに)なんかあったの彼氏？」
アヤカ「あかりさんをアフターに誘ったけど、断られたらしいですよ」
陽平「(アヤカに顔を接近させ)オレさ、あかりちゃんに今度、なんかプレゼントしようと思うんだけど、アヤカちゃんは何がいいと思う？」
アヤカ「(圧倒されて)それは‥‥えっと‥‥」
美鈴「ブランド物はやめといた方がいいわよ。人気のお水は高価なものをもらい慣れてるからね」
香澄ママ「陽平さんの心がこもったものがいいわよ」
陽平「心のこもったもの‥‥(頭を抱える)」

吉岡「人生の先輩として、アドバイスしてやろう。去年のクリスマス、オレが香澄ママに贈った元手ゼロの真心プレゼント‥‥」
陽平「(目を輝かせ)なんすか、それは！」
吉岡「(胸を張って)オレの署名捺印入りの婚姻届」
アヤカ・美鈴「重過ぎるわ！」

＃４　「スナック香澄」看板(数日後の夜)
アヤカのM「数日後、あかりさんが店にやってきました」

＃５　「スナック香澄」店内
　店内にアヤカ、香澄ママ、あかり、吉岡、美鈴がいる。
あかり「(青い顔で入ってきて)誰かに尾行されてる気がするんです。こないだも‥‥」

＃６　住宅街(夜・回想)
　仕事を終えて帰宅途中のあかりが足を止めて振り返る。
　背後にヘッドライトを消した車が停まっている。
　あかりが歩き出すと、車もゆっくり動き出す。
　あかり、必死に駆け出す。

＃７　もとの店内
アヤカ「(顔をひきつらせ)それってストーカー！」
香澄ママ「誰か心当たりはあるの？」
あかり「(考え込んで)‥‥」
吉岡「あかりちゃんの客かもな」
美鈴「自宅を探っているのよ、きっと」
　その時、扉が開き、カップル客(イケメンの若い男とセクシードレスを着たキャバ嬢風の女)が入ってきた。
アヤカ「(若い男を見て)トオルさん！」
トオル「(アヤカに片手を上げて)よっ、アヤカちゃん」
香澄ママ「お知り合いなの？」
アヤカ「あたしが掛け持ちでバイトしてる居酒屋の常連さんなんです」
アヤカのM「トオルさんはオネエ所長の下で探偵をしています‥‥」
　アヤカ、キャバ嬢の方を見る。
　そこにいるのは――キャバ嬢風に女装したオネエ所長の市山。
アヤカのM「オネエ所長！」
　店内の一同、言葉を失って市山を見ている。
市山「トオルちゃんがアフターに誘ってくれてうれしいわ。今夜アタシ、家に帰らない！(とトオ

ルに抱きつく)」
トオル「(逃げて、小声で)や、やめて下さい！」
香澄ママ「(あかりに)とにかく、しばらくここにいるといいわ。なんならあとで、あたしと一緒に帰ってもいいんだし‥‥」
あかり「(さりげなく顎に手をやって)‥‥うん」
　店の時計が午前０時を回っている。
吉岡「(気付いて)〝片町のシンデレラ〟が午前０時を回って、片町にいるのは珍しいんじゃないか。でも大丈夫、あかりちゃんの馬車はカボチャに戻らないから」
香澄ママ「そうそう、カボチャといえばあかりちゃん、お腹空いてない？　シナモンたっぷりパンプキンパイ、作ったんだけど」
吉岡「香澄ママ、オレにもちょうだい！」
　オネエ所長とトオルがさりげなく、あかりの様子を窺っている。
アヤカ「(市山とトオルの様子が気になって)‥‥」
アヤカのＭ「探偵さんがここにいるということは‥‥誰かを尾行してる？」
アヤカ「(閃いて)あっ！(と、あかりの方を見る)」
　あかりと吉岡がパンプキンパイをほお張っている。
吉岡「(くしゃみをしかけ)へ、へ、へ‥‥」
あかり「ぶえっくしょん！(と盛大なくしゃみ)」
美鈴「(吉岡を見て)何よ、いまのオヤジくしゃみ‥‥吉岡さんじゃないよね？」
吉岡「‥‥ああ」
美鈴「(店内を見回して)いまのくしゃみしたの誰？‥‥男の声だったよね？」
あかり「(真っ青な顔でうつむいている)‥‥」
市山「ぶえっくしょん！(とくしゃみして)最近、風邪気味なのよねアタシ(と鼻をかむ)」
美鈴「(納得して)なんだ、オネエのくしゃみか‥‥」
アヤカ「(腑に落ちない顔で何か言いかける)‥‥」
市山「(アヤカに向けて、唇に小指をあて〝シー〟のポーズ)‥‥さてトオルちゃん、帰ろうか(と席を立つ)」
香澄ママ「アヤカちゃん、お客様をお見送りしてあげて」

＃８　片町のメインストリート
　ビルから出てくるアヤカ、市山、トオル。
アヤカ「二人はあかりさんを調査してたんですね？」
トオル「ある依頼人から、彼女にダンナや子供がいないか調べてくれ、って頼まれてね。何かプレゼントしたいから、彼女の好みを探るようにも言われたよ」
アヤカ「依頼したのは陽平さん！‥‥あの‥‥あかりさんは、もしかして男？」
市山「そう。女装した男の子。毎晩午前０時で仕事を上がっていたのは、真夜中過ぎるとうっすらヒゲが伸びてくるから。〝片町のシンデレラ〟は実は王子様だったというわけ」

アヤカ「そのことを依頼人に報告するつもりですか？」
市山「彼女にはダンナも子供もいなかった、って報告するわ(とウインク)」

＃９　「スナック香澄」店内(数日後)
　仲良く来店しているあかりと陽平。
アヤカのＭ「それからもあかりさんは〝片町のシンデレラ〟と呼ばれながら、ホステスを続けています。ちなみに陽平さんがオネエ所長のアドバイスにしたがってプレゼントしたのは、なんとも意味シンな薔薇の花束でした！」
　あかりの笑顔。ストールに隠された喉仏がちらりと見えた。

おしまい